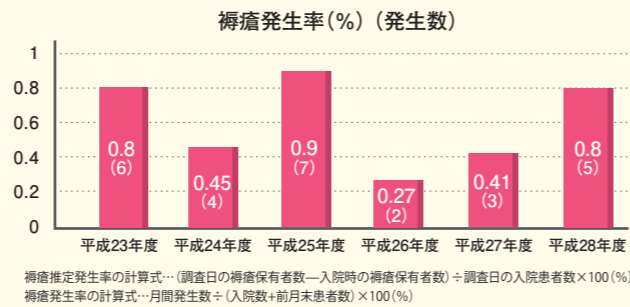


数字でみる錦海リハ

床ずれ防止を目指して!

入院時に患者さんに床ずれの有無やリスクについて確認しています。また患者さんにベッドサイドで簡単にできる検査で筋肉量を測定します。d 2レベル(真皮までの皮膚損傷)以上を褥瘡(床ずれ)としています。年間平均発生数は、平成23年度6人、平成24年度4人、平成25年度7人、平成26年度2人、平成27年度3人、平成28年度5人でした。グラフの数字の()が実数、その上が発生率(%)です。ちなみに平成24年度の全国推定発生率(一般社団法人 日本褥瘡学会による)は1.6%でした。



専門雑誌・書籍掲載

木佐高志(言語聴覚士)
言語聴覚士として利用者・家族のデマンドをどう引き出すか
訪問リハビリテーション第6巻・第5号(通巻35号)、株式会社gene出版、2016.12.15
佐藤勝之(言語聴覚士)
新連載「リハ病棟 在宅生活支援のトライアル」動画(DVD)による情報提供-退院後の食事環境の維持
一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会機関誌「回復期リハビリテーション」2017年1月号、株式会社厚生科学研究所出版、2017.1.31

外部講演

善波吉人(社会福祉士・事務長兼地域医療連携室課長)
認知症の理解~対象者の理解と接し方~
平成28年度市民後見人養成講座、米子市・権利擁護ネットワークほうき主催、2016.10.15、米子市
増原俊幸(理学療法士)
介護保険サービスの種類と利用までの流れ
第21回アクティブシニア健康教室、2016.10.20、米子市
小谷優平(言語聴覚士)
摂食嚥下障害の見方 - 実症例の検討を通して -
木佐高志(言語聴覚士)
摂食嚥下障害の症例検討 - サンプルとひえつの一例 -
佐藤菜実子(言語聴覚士)
症例検討 - チューリップホームの1例 -
佐藤勝之(言語聴覚士)
症例検討
キマチ・リハビリテーション病院第4回勉強会、キマチ外科主催、2016.10.28、大山町
角田賢(医師・副病院長)
シンポジウム「脳卒中における診療連携の課題」
脳卒中地域連携の重要性 回復期リハビリテーション病棟の立場から
第34回日本神経治療学会総会、日本神経治療学会主催、2016.11.5、米子市
井後雅之(医師・病院長)
圏域の脳卒中の現状とリハビリテーション
DS機器セミナー、第一三共株式会社・株式会社セイエル主催、2016.11.11、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)、足立睦未(理学療法士)、吉岡志穂(看護師)
当院における転倒転落対策チーム「まくれん隊」の取り組み
平成28年度医療安全交流会、鳥取県看護協会主催、2016.11.12、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、横木貴史、遠藤美紀、木村登、長崎正義、西門美都、野坂進之介、松村結希(理学療法士)
組織で取り組む移乗と腰痛
2016.11.16、米子市
上村順一(理学療法士)
腰痛について
第22回アクティブシニア健康教室、2016.11.18、米子市
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)、足立睦未(理学療法士)、吉岡志穂(看護師)
当院における転倒転落対策チーム「まくれん隊」の取り組み
平成28年度医療安全交流会、鳥取県看護協会主催、2016.11.19、鳥取市
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
口から始める健康づくり講座フォーアワード講座、米子市主催、2016.11.22、米子市
角田賢(医師・副病院長)
目標設定等支援・管理シートにどう取り組むか
第6回電子カルテ共通病院研究会、電子カルテ共通病院研究会主催、2016.12.3、米子市
角田賢(医師・副病院長)
H28年度診療報酬改定に伴う鳥取県西部地区脳卒中地域連携バスのマニュアル一部変更について
鳥取県西部地区脳卒中地域連携研修会、鳥取県西部医師会主催、2016.12.8、米子市
角田賢(医師・副病院長)
平成30年度医療・介護同時改訂に向けて回復期リハ病棟がなすべきこと
平成28年度第4回回復期管理者研修会、回復期リハビリテーション病棟協会主催、2016.12.10、東京都
横木貴史、足立睦未(理学療法士)
膝の痛みと予防のための運動
第23回アクティブシニア健康教室、2016.12.13、米子市
永岡直充(理学療法士)
高齢者肺炎のリスクと予防
第24回アクティブシニア健康教室、2017.1.17、米子市
井後雅之(医師・病院長)
脳卒中、とくに心原性脳塞栓の現状とリハビリテーション
心房細動トータルケアセミナー、第一三共株式会社・株式会社エハルス主催、2017.1.19、米子市
上村順一(理学療法士)
股関節痛を引き起こす疾病と予防するための運動
第25回アクティブシニア健康教室、2017.1.20、米子市
善波吉人(社会福祉士・事務長兼地域医療連携室課長)
シンポジウム「医療連携の現状と課題~患者さんのためのより良い連携を目指して~」
回復期の立場から 急性期から生活期へのシームレスな連携について
平成28年度鳥取県西部地区医療連携協議会、鳥取県西部地区医療連携協議会・鳥取県西部医師会・鳥取県・鳥取大学医学部附属病院主催、2017.1.26、米子市
神坂綾(社会福祉士)
医療分野の社会福祉士について~診療報酬制度における位置づけと当院での取り組みを中心に~
平成28年度第2回鳥取県社会福祉士会西部地区研修会、鳥取県社会福祉士会主催、2017.2.4、米子市
木佐高志(言語聴覚士)
言語聴覚士ができる介護予防の取り組み
平成28年度第3回介護予防従事者研修会、鳥取県主催、2017.2.15、倉吉市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、上村順一、遠藤美紀、長崎正義、西門美都、横木貴史(理学療法士)
腰痛を知り、改善と予防に活かす
第26回アクティブシニア健康教室、JA鳥取西部主催、2017.2.16、米子市
角田賢(医師・副病院長)
高齢者、認知症、脳卒中後の自動車運転についてどう考えるか
米子ロータリークラブ、2017.2.17、米子市

上村順一、遠藤美紀、長崎正義、西門美都、横木貴史(理学療法士)
姿勢の変化と腰痛 腰痛予防体操の紹介
第27回アクティブシニア健康教室、JA鳥取西部主催、2017.2.23、米子市
角田賢(医師・副病院長)
質の向上が求められる1回復期リハ病棟の今後について
医療施設整備・機能強化セミナー、福祉医療機構主催、2017.2.24、東京都
岩田久義(言語聴覚士・リハビリ技術部主任)
しっかり噛んで飲み込んでおいしいものを食べて健康長寿
啓成地区健康フェスティバル、米子市主催、2017.2.24、米子市
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)、横木貴史、西門美都、遠藤美紀、松原岳洋、野坂進之介(理学療法士)
安心・安全な歯科治療のために学ぶ姿勢の基本
鳥取県中部・西部歯科医師会、鳥取県歯科医師会主催、2017.3.19、米子市

学会発表

今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
Effectiveness of Prognosis Prediction by Using Functional Independence Measure for Participants with Stroke
西門美都(理学療法士)
EMG Characteristics of Muscle Activities of after Stroke during grade of Adjustable Posterior Strut
Ankle Foot Orthosis-A Single Study
Asian Confederation of Physical Therapy Congress 2016、2016.10.7-8、マレーシア
永岡直充(理学療法士)
脳血管疾患患者の口腔周囲の感覚鈍麻に着目し、FVC、FEV1、PEFの値より呼吸機能評価に連したマウスピースの選定
第26回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、2016.10.10-11、神奈川県
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
視覚情報の制限が健常者における歩行時の運動学的、電気生理学的要素に与える影響
長崎正義(理学療法士)
経験年数、歩行能力、FIMが理学療法時の運動強度に与える影響
佐々木夏美(作業療法士)
MALを応用することで麻痺側上肢への意識付けが可能となった一症例
仙田春英(作業療法士)
リハビリテーションマネジメント加算(II)を算定することで復職支援に向けた連携が円滑に行なえた一症例
新和なつみ(作業療法士)
当院における退院後の職場復帰に影響する因子についての一考察
福田由美子(看護師)
構出血による重度嚥下障害の低栄養をきたした患者の経口摂取獲得と在宅復帰へのアプローチ
吉岡和音(介護福祉士)
当院でのレクリエーションの取り組み~参加率で見えてくるもの~
リハビリテーション・ケア合同研究会 茨城2016、2016.10.27-29、茨城県
今田健(理学療法士・リハビリ技術部課長)
Re-acquisition rate of gait for participants had stroke by correcting functional independence measure retrospectively、
Singapore-International Physiotherapy Congress 2016、2016.10.29-30、シンガポール
坂根嘉奈子(看護師・看護部主任)
認知機能とオムツレススコアの関連
第47回日本看護学会-慢性期看護-学術集会、2016.11.10-11、米子市
原大樹(理学療法士・リハビリ技術部主任)
視覚情報が健常者における歩行時の運動学的、電気生理学的要素に与える影響
北山朋宏(作業療法士・リハビリ技術部課長)
当院における転倒転落対策チームの取り組みについて
第43回中国四国リハビリテーション医学研究会、2016.12.11、広島県
横木貴史(理学療法士)
大病院と回復期リハビリテーション病院間における人事交流を通して得られた回復期理学療法に必要な視点
松村結希(理学療法士)
右人工膝関節置換術を施行された症例の膝関節可動域と膝伸展筋力に着目し、独歩で自宅退院した一例
小山雅之(作業療法士・リハビリ技術部主任)
残存機能を活かして1動作自立を獲得した脳幹梗塞・四肢麻痺の一症例
村上英里(作業療法士)
高次脳機能障害を有する患者の退院支援について
小谷優平(言語聴覚士)
回復期リハビリテーション病棟の脳卒中経管栄養患者の予後予測
佐藤勝之(言語聴覚士)
誤嚥防止術を決定したことで常食摂取が可能となりQOL向上に繋がった一例
吉岡志穂(看護師)
回復期リハビリテーション病棟における転倒患者の特性・転倒につながった行動目的および動作からの考察
前田慶子(介護福祉士)
誤嚥防止術後のラリチューブの自己管理に向けた固定・バンドの考察
原口大(介護士)
回復期リハビリテーション病院退院後の身体機能維持向上への関わり-健康運動指導士、実践指導者として
取り組んだことへの検証-
神坂綾(社会福祉士)
地域医療連携室 社会福祉士における病院機能評価を活用した業務改善の取り組み
回復期リハビリテーション病棟協会 第29回研究大会in広島、2017.2.10-11、広島県

※氏名、職員の肩書は掲載、開催時点のものであり現在は変更があります。

診療方針: わたくしたちは
回復期リハビリテーション医療と地域連携を通して
患者さんの社会参加を支援します。

R 錦海リハビリテーション病院
〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-4-5
TEL 0859-34-2300 [代表]
FAX 0859-34-2303



KINKAI REHABILITATION HOSPITAL

NEWS



錦海リハビリテーション病院ニュース

発行: 社会福祉法人こうほうえん 錦海リハビリテーション病院

TEL: 0859-34-2300 [代表]
E-mail: kinkai-hp@koho.jp
URL: http://www.kinkai-rehab.jp

2017 VOL. 05

SPECIAL 最前線 1

錦海リハビリテーション病院

病院長就任のご挨拶

平成29年4月1日付けで、 新病院長として角田賢が就任しました。

皆さん、こんにちは。この度、井後雅之現名誉院長の後任として、錦海リハビリテーション病院の病院長に就任した角田です。

錦海リハビリテーション病院開設1年後の平成19年4月に私が勤務してから丁度10年の節目になる今年、この大役を仰せつかることになりました。



回復期リハビリテーション病棟が診療報酬制度で新設されてから17年が経過し、全国で約8万床、当院が開設された平成18年と比較して約2倍にまで増加しました。この間、地域完結型医療が推進され、急性期病院はより急性期らしく、回復期病院は、より回復期らしく、生活期はかかりつけ医に、という形でそれぞれが自らの得意分野に特化し、より質の高い医療を提供できる体制づくりが促進されてきました。地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想に基づく病院の機能分化推進もこの流れの中にあります。錦海リハビリテーション病院は、鳥取県西部地区にある6つの回復期リハビリテーション病棟の一つとして、特に脳血管障害を中心に回復期リハ

ビリテーション医療とその後の生活期リハビリテーション(通所リハビリテーションと訪問リハビリテーション)を地域に提供してきました。

国内でも先頭を切って少子高齢化の進行する鳥取県において、医療機関は人々がその地域で暮らしていく上での重要なインフラであり、地域が存続し続けるためには、医療がきちんと機能を発揮しなければなりません。この10年間でこの地域の高齢化はさらに進行し、当院にリハビリテーション目的で転院してこられる患者さんも、それを支える家族の状況も変化しており、リハビリテーションの重要性はさらに高まってきています。

この米子の地に錦海リハビリテーション病院が あって良かった、と感じていただけるように。

国の財政状況の悪化も含め、医療を取り巻く環境はより一層厳しさを増していますが、「より良い機能回復」、「より良い生活機能の獲得」、「より良い在宅復帰、社会復帰」であり、住み慣れた場所でその人らしい生活を送ることができるようにするという当院が地域で果たすべき役割は不変です。



この米子の地に錦海リハビリテーション病院があって良かった、と感じていただけるような回復期リハビリテーションと生活期リハビリテーションをこれからも提供し続けていきたいと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
院長 角田 賢

SPECIAL 最前線 2

当院の11年を振り返って

この度、錦海リハビリテーション病院 病院長を退任し名誉院長の職を拝命することとなりました。

当院は急性疾病後に障害(不自由)を発症した方の回復期を中心とするリハビリテーション専門病院として運営してきました。急性疾病の多くは脳卒中、下肢骨折、大手術などで、医療保険制度上は脳血管系、骨関節系、廃用症候群などに分類され疾患別リハと呼ばれています。とくに脳が損傷されるとその部位や程度により様々な症状が出現するため多くの専門職による濃密なリハ対応が必要となります。

人口構造を含む社会変化は医療にも影響を与えこの10年で当院の入院平均年齢も5歳程高くなり平成28年度は75歳を越え、いわゆる後期高齢者が半分以上を占める状況です。



そうなる認知症、がん、骨粗鬆症など加齢性疾患多病合併が常態化し従来の疾患別リハの考え方でだけでは対応がしきれず在宅復帰のためには家族の協力も含めより個別的集中的早期対応が重要となり、いわば後期高齢者リハといったものを新たに構築していく必要があると考えます。

時代の変化とともに病院運営の変化は必至であり病院長職は次世代に交代し私としては新たな段階のリハの在り方を考えていければと思っています。地域の皆様には様々なご支援を頂きありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

なお、後任には当院副院長でありました 角田賢が就任致しますので何卒一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



開院10周年記念 職員集合写真

社会福祉法人 こうほうえん
錦海リハビリテーション病院
名誉院長 井後雅之

SPECIAL 最前線 3

看護部の紹介

看護師の仕事

回復期リハビリテーション病棟で働く看護師の仕事を紹介します。

患者さんが持っている能力を最大限活かし、患者さんと家族を支援することが主な業務です。退院後の生活を見据えて入院生活すべてがリハビリと考え①ベッド上ではなく食堂で食事を②洗面所で歯みがき③朝晩の着替え④トイレを使つての排泄⑤湯船につかった入浴など、病気になる前に行っていたことに近づけることを毎日繰り返して自立を目指します。



患者さん一人ひとりの身体状況、心理状況に合わせてケアを行っていきます。

入院患者さんの平均年齢は75歳であり、認知症・糖尿病・高血圧・がん・喘息・難聴・白内障などいろいろな病気の方も多く、全身管理や薬の知識も要求されます。リハビリは患者さん自身がやる気で頑張らないと効果がみられないため、医療の知識や技術の他に心理面の援助力が必要です。



急性期病院への出前講座の様子
回復期リハビリテーション病棟協会 認定看護師より「回復期リハ病院と看護師の役割」についての紹介



写真中央が平成29年4月より就任した大野淑恵看護師長

TOPICS 01

第6回電子カルテ 共通病院研究会を開催しました

第6回電子カルテ共通病院研究会を平成28年12月3日(土)に当地米子で開催しました。本年度は錦海リハビリテーション病院が担当病院となり、共通の電子カルテ(株式会社 エムビーテック)を使用している病院・診療所のスタッフが全国各地より集まり、様々な意見交換をおこないました。研究会では当院の見学、各病院の電子カルテのデモンストレーションの後、パネルディスカッションでは「ICFを用いた目標設定支援管理シートの作成と電子カルテにおける活用方法を考えよう」をテーマに各病院が取り組みを発表し、情報・アイデアを共有することができました。次回開催地である別府リハビリテーションセンターでの再会を楽しみにしております。



各病院の取り組みを発表したパネルディスカッション

TOPICS 02

第21回こうほうえん 研究発表大会が開催されました

平成29年3月21日(火)に、第21回こうほうえん研究発表大会が開催されました。特別報告では、「米子市・美濃加茂市 二市連携ICT活用保育事業成果報告」を発表いただきました。今年は口演発表、ポスター発表合わせて115演題。当院からは29演題発表し、山瀬純 介護士のグループが優秀演題賞を受賞しました。演題名を「回復期リハビリテーション病院退院後の身体機能維持・向上への関わり～健康運動指導士・実践指導者として取り組んだことへの検証～」とし、比較的高い自立度の高い入院患者さんへの退院後の身体能力の維持・向上に向けた取り組みが高く評価されました。



研究発表を行う当院職員

TOPICS 03

第18回日本言語聴覚学会のご案内

当院、竹内茂伸 副院長(一般社団法人 山陰言語聴覚士協会 会長)が学会長を務めます、第18回日本言語聴覚学会が平成29年6月23日(金)～24日(土)の2日間、島根県松江市の「くにびきメッセ」に於いて開催されます。今回の学会テーマは「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される言語聴覚士になる。一地域包括ケアに求められる言語聴覚士の役割」です。学会期間中は市民公開講座も企画されていますので是非ご来場ください。



詳しくは第18回日本言語聴覚学会のホームページ
<http://jaslht2017.jp>でご確認ください。

TOPICS 04

山陰沖で獲れた 旬の魚を提供しています

平成28年5月より定期的に、山陰の旬の魚を食事で提供する取り組みを行っています。日本海有数の漁獲高を誇る境港で水揚げされた新鮮な魚を使用しています。これまでに、境港サーモンのお刺身、サバの味噌煮、アジの南蛮付け、あごつみれ煮、カレーの煮付け、アジのお刺身、ハマチのお刺身、タラの蒸し焼きを提供しました。お刺身は特に好評で、患者さんより「おいしかった」「鮮度が良い」といったご意見を頂いています。

今後も、この取り組みを継続し、患者さんに喜んで頂けるよう努めていきます。



カレーの煮つけとハマチの刺身